

後発薬中心

3100
品目中薄

薬メーカー不祥事響く

価格の安いジェネリック医薬品（後発薬）を中心とした品薄になってしまったが、厚生労働省への取材で分かった。複数の後発薬メーカーが法令違反で出荷停止になつたことが主な原因だ。他メーカーが供給を出し惜しみする「出荷調整」も起り、薬局などで必要な医薬品の入手が難しくなつてしまふ。同省は10日、業界団体に通知を出して対策に乗り出しだが、品薄は長期化しそうだ。

▼32面=「薬局同士取り合ひ」

現在、国内で公的医療保険の対象となる医薬品は約1万4千品目で、全体の2割超の薬で供給に影響が出ていることになる。きっかけは後発薬メーカーの小林化工（福井県あわら市）が、水虫などの皮膚病用の飲み薬に睡眠導入剤を混入させた問題だ。健康被害が相次ぎ、今年2月に受けた。その後、後発薬大手の日医工（高岡市）が3月、長生堂製薬（徳島市）が10月に業務停止処分を受けたところだ。得意先や顧客へは、品薄状態がさらに拡大したところ。後発薬が選べる際の使用在庫があるのに注文を断る「出荷調整」を引き起こす。割合は、昨年9月時点では78%以上増えていたのに品薄状態を重くみた厚労省は10月、出荷停止の影響を調査。昨年9月と比べ、今年9月の供給量は、出荷停止の品目やその代替品と同じ成分・規格の約480品目のうち14%で減つていたことが分かった。これを受けて同省は今月10日、前年比で20%以上減少した高血圧や気管支ぜんそく治療「が横行している」とみた。同じ業界関係者は、「出荷調整」が横行しているうちに、品薄状態を重くみた厚労省によるところだ。厚労省によると、増産には限界があり、停止品目の出荷再開が不可欠だが、全品目の再開には約2年かかる見通しどう。西村圭史、市野聰

（西村圭史、市野聰）

・3%以上の想定。政府は医療費を抑えるため、2023年度末に「全国で8割以上にする目標を掲げており、ほぼ達成しきりある。

品薄状態を重くみた厚労省は10月、出荷停止の影響を調査。昨年9月と比べ、今年9月の供給量は、出荷停止の品目やその代替品と同じ成分・規格の約480品目のうち14%で減つていたことが分かった。

これを受けて同省は今月10日、前年比で20%以上減少した高血圧や気管支ぜんそく治療「が横行している」とみた。同じ業界関係者は、「出荷調整」が横行しているうちに、品薄状態を重くみた厚労省によるところだ。厚労省によると、増産には限界があり、停止品目の出荷再開が不可欠だが、全品目の再開には約2年かかる見通しどう。西村圭史、市野聰

（西村圭史、市野聰）

・3%以上の想定。政府は医療費を抑えるため、2023年度末に「全国で8割以上にする目標を掲げており、ほぼ達成しきりある。

品薄状態を重くみた厚労省は10月、出荷停止の影響を調査。昨年9月と比べ、今年9月の供給量は、出荷停止の品目やその代替品と同じ成分・規格の約480品目のうち14%で減つていたことが分かった。これを受けて同省は今月10日、前年比で20%以上減少した高血圧や気管支ぜんそく治療「が横行している」とみた。同じ業界関係者は、「出荷調整」が横行しているうちに、品薄状態を重くみた厚労省によるところだ。厚労省によると、増産には限界があり、停止品目の出荷再開が不可欠だが、全品目の再開には約2年かかる見通しどう。西村圭史、市野聰